



2016



CHARTERED SEPT.11.1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2015 - 16 会長主題

一人ひとりが賜物。もっと発酵、もっと発信！

あずさ部長	標 克明 (甲府)	「ワイズメンとして一歩前進」
東日本区理事	渡辺 隆 (甲府)	「原点に立って、未来へステップ」
アジア地域会長	Edward K. W. Ong (シンガポール)	“Through Love, Serve” 「愛をもって奉仕をしよう」
国際会長	Wichian Boonmapajorn (タイ)	“Mission with Faith” 「信念のあるミッション」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上妻英夫 / 書記 鈴木田通夫 / 会計 尾内昌吉・金本伸二郎
 直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 松本竹弘

2016年 6月例会+ヨルダン会
 <評価の月>
 と き **6月21日(火) 18:30~20:30**
 ところ 山手センター101室
 受付 功能文夫さん、飯島愛子さん
 司会 上妻英夫さん
 開会点鐘 会長
 モットー・ワイズソング 一同
 聖句朗読・祈祷 司会者
 ゲスト・ビジター紹介 会長
 会食 一同
 ハッピーバースデー
 楽しい歌
 「新年度へ向けてキックオフ」
 浅羽会長挨拶、会長交代式
 金本伸二郎新会長挨拶
 —新年度方針について—
 山手Yの小窓から 担当主事
 ニコニコ 一同
 諸報告 担当主事、会長
 閉会点鐘 会長

当番[第1班] 功能、上妻、尾内、飯島(愛)

ワイズメンズクラブ モットー

『強い義務感をもとう
 義務はすべての権利に伴う』
 “To acknowledge the duty
 that accompanies every right”

今月の聖句

神は、これほど大きな死の危険からわたしたちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょ。これからも救ってくださるにちがいないと、わたしたちは神に希望をかけています。あなたがたも祈りで援助してください。

コリント信徒への手紙二 1章10, 11a 節

6月 HAPPY BIRTHDAY

上妻清子さん 8日 尾内昌吉さん 14日

会費の納入は、会計(尾内君)への納入または下記銀行口座への振込みをお願いします。
三菱東京UFJ銀行 高田馬場駅前支店
普通 3548431「東京山手ワイズメンズクラブ」

5月報告

会員在籍数		17名
例会出席者	メン	12名
	メネット	1名
ゲスト・ビジター		7名
会員出席率		71%
ニコニコ	9,000円(累計90,055円)	
B F	国内切手 1.6kg	外国切手—kg



5月例会 報告

5月17日(火) 18:30~20:30

山手センター 101号室

出席：浅羽、上妻、飯島、飯野、尾内、尾内(規)、
 功能、鈴木田、鈴木田(祐)、戸坂、中村、
 増野、 12名

メネット：浅羽 恵さん

ゲスト・ビジター

松浦幸子さん(卓話者・NPO法人クッキング
 ハウス会 代表)

新井克己さん(東京YMCA会員、元リーダー)

菅波 健さん(浅羽さんの友人)

玉田洋子さん()

麻生由美子さん(東京武蔵野多摩・元リーダー)

大輪匡史さん()・元リーダー)

米澤さつきさん(飯野さんの友人)

合計 20名

司会は増野さん。4月に続いて5月もお客様を
 迎えて賑やかな会になりました。Happyバース
 デーは鈴木田さんとゲストスピーカーの松浦幸子
 さんをお祝いし、続いて楽しい歌は鈴木田祐子さ
 さん選曲の「山小舎の灯」(たそがれの灯は・・・)
 を戸坂さんのピアノで歌いました。

卓話の時間になり、まず増野さんから、「不思議
 なレストラン」を始めた松浦幸子さんは女性ソー
 シャルワーカーの一人で日本の精神医療を変えた

方です、とのご紹介がありました。

卓話「こころを病む人とともに暮らしたい」

要旨

今は精神保健福祉士は国家資格だが、29年前私
 が始めたころは評価されない仕事だった。

統合失調症の人は自分の世界にいたり、自分
 が病気だと思わない。あるときどこに行っていた
 か分からなかった人が戻ってきたので、「病院に行
 って休みましょうか」と話したら、「お願いします」
 と言った。自分から入院するというのは自分の人
 生を始めるということであり、医療保護入院や強
 制入院でなく任意入院ということは私の喜びだっ
 た。

私の息子が不登校になり昼夜逆転したとき、私
 の母は「幸子の心にゆとりが戻ってくるように」
 とお地蔵さんに祈った。私が息子に「学校に行っ
 ても行かなくてもいいよ」というと息子は「行か
 ない」と言った。私も弱い人のためにと、東京
 YWCA 専門学校社会福祉科に入学し、精神科の病
 院で実習を受けた。鍵をかけた畳部屋に人生をあ
 きらめた人たち、閉じ込められてたちが人いた。
 閉鎖病棟ではなく地域で街のなかで一緒に暮らす
 にはどうしたらいいかを考えた。

国立下総療養所に18歳から入院している38歳
 の女性の外泊練習(憶えていたところに行く)の
 サポーターになってその人が無事退院したところ、
 私も退院したいという人がいた。

心を病む人たちの居場所を作ろうと、1987年に調布駅前にクッキングハウスをワンルームで始めた。食べる文化と喜びがあれば生きていける。精神科の食堂は淋しいけれどクッキングハウスには笑顔があり、表情が違った。病気じゃない部分の可能性を広げていけばいい。よく来てくれたねと迎える、その人のいいことを見つけてそれを伝えて自信をつければ回復につながる。

5年目(1992年)に自分たちができることで社会参加しようと、玄米食のレストランを開いたところ、繁盛した。心の相談もできる「不思議なレストラン」と呼ばれるようになった。ご飯は500円、タバコは吸わない、自分だけで食べるものは持ってこない、をルールにした。そのうちにメンバーに給料がでるようになった。

1995年には市民協力債券(1口10万円)で71口710万円が集まり、現在のレストランをオープンした。5年後に全額返済した。賛助会員は1,000人いる。

レストランメンバーの平均年齢は45歳、半数の人は生活保護を受けている。メンバーの基本給は1日250円、ボーナスは1か月分、月8,000円を超えると保護費を引く。

増野先生には「心の健康講座」と「サイコドラマ」でご協力いただいている。

(まとめ・功能)

5月ヨルダン会 報告

日時：5月25日(水) 13:30~15:00

場所：山手センター204

出席：浅羽、尾内、功能、鈴木田(通)、中村、松本主事、6名

1、6月例会 6月21日(火)、キックオフ例会と6月ヨルダン会を同時開催とし、浅羽会長の年度報告と金本新会長の主題、活動方針の発表を中心とする。

2、次期の部3役の出張費について、部からの補助のほかに山手クラブ会計からも補助を支出することとしているが、小さなクラブから部長を出す場合は困難ではないか。部会計からの出張費補助を見直す必要があるのではということから、各クラブでは部長クラブになったときにどの様に対処しているか調査してはどうか、ということが話し合われた。

3、5月会計報告(尾内)

4、新年度からヨルダン会は第4水曜夜19時

から開催に変更。

5、ブリテン6月号印刷・発送日 6月3日

6、松本主事から、熊本地震支援の出張報告があった。6月ブリテンに報告記事を書く。

以上

—青鹿さんを名誉会員に推挙—

5月28日に開催された東京YMCA会員大会には、134名の会員、職員、リーダーが集い、盛会でした。山手クラブ関係では、青鹿博明さんが永年の奉仕により名誉会員に推挙されました。おめでとうございます。また、中村孝誠さんが会員部運営委員に再任されました。ますますのご活躍を応援しましょう。

また、戸坂昇子さんが勤続25年職員表彰を受けられました。そしてユースボランティアオブザイヤーには山手センターからは奥野萌子さんほか計5名が表彰されました。

第3部のパーティーでは浅羽さん率いるジャズグループの演奏が会場を盛り上げました。

(青鹿、浅羽、尾内、中村、職員として戸坂、松本が出席しました。)

おたより(5月)

<上妻英夫さん> 「潮風やウグイスやまぬ勿来関(なこそせき)」。連休に常磐道から勿来の関を訪ねた。松古木の乱立の中、ウグイスが鳴きやまぬ。常磐道全通1周年記念イベント中(相馬市、いわき市等)で、しかし双葉町、浪江町等には放射性廃棄袋が山積みになれ自動車側まで積まれており放射能測定表示が何か所にも示されている。また当地は道路から人影は見られず帰宅出来ない状態で本当にお気の毒です。

<鈴木田通夫さん・祐子さん> 5月例会卓話「ここを病む人とともに暮らしたい」松浦幸子さんの心のこもったお話と共に溢れる愛情を深く感じられたこと、とてもうれしく感謝でした。

<浅羽俊一郎さん> 今月の聖句、被災地のことを思って選びました。さて、2年間会長として先輩諸兄姉の皆さんから色々学ばせてもらいました。ありがとうございました。来期は金本会長を支える直前会長とあずさ部部長ですが、引き続き皆さんの助言と鞭撻をよろしく願います。

南相馬市小高を想う

青鹿博明

東京Y元リーダー仲間佐藤仁牧師がいる。彼が牧師となって最初に赴任したのが南相馬市の小高教会である。その就任式に出席するために訪れただけなのだが、何故か心に残っている。

東日本大震災の時、まず頭に浮かんだのは地域の人達はどうなったかなということであった。もちろん現地に行けるわけではなく、テレビや佐藤牧師夫妻との連絡によって知るしか方法がなかった。見えない放射能によって住むことが許されず、それぞれが住む場所を求めて散っていったという事であった。

しばらく年月が過ぎて電話で、子供たちが自分たちの生まれた所がどうなっているのか見に行つてケイサツに捕まったので、もらい下げに行つてきた、という話だった。子供たちがどのようにして行つたかは分からないけれど、何となく分かるような気がする。

先日もテレビで、一時帰宅を許された畜産農家の方が、牛舎で死んでいる牛たちを見て、「もっと早く帰宅が許されていたら、この牛たちは死なないでいただろうに」と嘆いておられた。

それにしても、自分の家がありながら自由に住めない地域が日本にあるとは！

鉄道が開通するのはいつか。小高教会の方達は年1回、クリスマスに礼拝を守っておられるが、毎日曜に礼拝を守るようになるのはいつか。

表面をこすり取った残土を入れた黒い大きな袋はそのまま放射能は消えるのか？

災害が次々に起こるが、まだ自分で出来ることはやっていきたい。



▼第 692 回東京 YMCA 午餐会

日本語の場合、和語、漢語、外来語があり、語彙の体系を複雑にしています。「速さ」、「速度」、「スピード」のような違いです。こうした違いを手がかりに、日本語の語彙の豊かさ、語彙力アップの方法をご紹介します。

テーマ：日本語の言葉

卓話者：石黒 圭（けい）氏

国立国語研究所教授・一橋大学連携教授

日時：6月23日（木）12：00～13：30

場所：東京大学YMCA 文京区向丘 1-20-6

東京メトロ南北線 東大前駅 歩 0 分

参加費：3,000 円（食事なし1,500 円）

問合せ：東京 YMCA 賛助会 03-3615-5562
6/20 まで

▼熊本地震緊急支援募金

熊本YMCAでは全国のYMCAからスタッフの派遣を受け入れ、共に、避難所の運営、物資支援などの緊急支援活動を行っております。皆様の尊いご支援とご協力をお願い申し上げます。

1.被災コミュニティの緊急支援

避難所支援(熊本市、益城町、御船町、阿蘇市など)地域住民の生活支援

2.被災者の復興支援-熊本 YMCA の活動を通して持続的な市民の復興を支援

市民の心身の健康を支える活動、被災者の心のケア活動

復興を担うリーダーシップの育成

募金期間：2016年4月25日(月)～6月30日(火)

募金方法：お近くのYMCAに直接お持ちいただくか、下記銀行口座にお振込みください。

肥後銀行(0182) 新町支店(103)

(普)口座番号 1296939

口座名義 災害支援緊急募金 理事長 菅正康
(カンマサヤス)

※住所・氏名・電話番号もお忘れなくご記入ください。※お振込みの際は、お名前の前に「熊本地震」とご記入ください。

(松本竹弘)



第3回あずさ部アイリス評議会

上妻英夫

日：5月14日（土）、
会場：高尾の森わくわくビレッジ
ホスト：東京八王子クラブ
山手からの出席者：浅羽、尾内、上妻

定刻 13:30 中塚ワイズ（八王子）の司会で始められ、ホストクラブ会長長谷川あや子ワイズは「新緑溢れる清々しい季節、そしてくアイリス評議会」というネーミングは昨年秋クラブで高尾の森わくわくビレッジの庭に植えたアイリスにかけたもので、それが見事に咲き今満開であります」と話され、八王子クラブらしい微笑ましい歓迎の挨拶でした。

評議会に入り標部長は部長挨拶の中で、前回の評議会でも各主査・クラブ会長報告に次年度への提言をも含めて発表して欲しいと話されました。

議案審議では浅羽次期部長の議案提出

第1号議案：小山久恵次期部書記が部長の代行として説明。部長主題「あずさ部は賜物の宝庫。もっと生かそうぜ」のもと6項目あり、特に主査との強化・自覚を持って又メンバーの特徴を汲み取ること、頻度の高い部報発行に依る連絡事項伝達等承認

第2号議案：次年度予算案を尾内昌吉次期会計が説明、承認。

第3号議案：次期部会 2016年10月22日（土）
ホスト東京山手クラブ 承認。

第4号議案：次年度評議会開催の件

第1回評議会 2016年7月16日

ホスト・武蔵野多摩クラブ

第2回評議会 2017年2月11日

ホスト・東京サンライズクラブ

第3回評議会 2017年5月13日

東京たんぼぼクラブ

第5号議案：次期部役員承認の件

原案通り承認

第6号議案：2017～2018 あずさ部長に東京西クラブ大野貞次ワイズを承認。

続いて部長・各事業主査・クラブ会長の今年度実績報告がありました。まず標部長クラブ公式訪問による各クラブの現状、2回の評議会成果報告、各事業主査は年間実績を報告。クラブ会長報告 甲府 渡辺隆区理事・標部長のホームクラブとして強力にバックアップすると共に長野での東日本区大会を全面的に協力、周辺クラブとの連携強化の実績披露。

東京山手 浅羽会長に代わり小生が報告。会長主題の「一人ひとりが賜物・もっと発酵・もっと発信」につき、発酵は資料の通り活動、発信はブリテンに記載。RBM献金先国際赤十字赤新月社に21万スイスフラン寄贈式に浅羽会長も立ち会った。「私の福島・フクシマ」連載記事を10回掲載、4月例会スピーチで島田茂同盟総主事がワイズ会員誘いに60歳前後を考えるのが良いのではと述べた。

東京西 82歳の方の入会と40周年記念祝会案内、次々期部長を引受けた。

東京武蔵野多摩 3名の入会式、国立サクラ祭りを西東京YMCAと共に盛り上げた。

松本 新規事業にキッツオリエンテーリング開催 素晴らしい公共施設（再生古民家）で25名（大人10名）参加、ゲーム・豚汁等賑やかな一日だった。今後拡大の方向で検討する。

東京サンライズ 山手学舎生との鍋パーティ、DBC3クラブ合同例会を担当。

甲府 21 創立25周年記念例会一泊旅行、京都からの参加者も有り有意義であった。

東京八王子 東日本大震災・地雷廃絶チャリティーコンサートに260名参加、29万円の収益を双方に14万5千円ずつ寄付。高尾の森にワイズガーデンを開始した。

東京たんぼぼYサービス たんぼぼ寄席が好評、次年度は部評議会ホスト等にご協力を。

富士五湖 原副会長が代行で報告。6年先まで会長が決まっている、出席率が高い今後も継続するように努力する。富士山例会10周年になる。フライングディスク大会過去最高総勢約170名参加しCATVでも放送された。

長野 東日本区大会一色で409名登録、意義ある大会にしますので期待してご出席を。

懇親会には浅羽会長も駆け付けて盛り上がり、以前山手クラブの担当主事だった佐藤信也主事が当館長として大変便宜を計ってくださり素晴らしい懇親会で、またテーブルに熊本義援金封筒が回り、また各クラブが献金袋を渡辺区理事に託しました。

「新緑をくぐり抜けるや高尾森」



<熊本地震 スタッフ派遣報告>

松本竹弘

4月14日、16日に発生した熊本地震は、5月に入ってからも余震が続き、被災された方は安心して生活ができない状況です。避難生活者は減少する一方、多くの住宅被害が報告され、熊本YMCAが指定管理者として運営する「益城町総合運動公園・体育館」及び「御船町スポーツセンター」は避難所として運営をしています。全国のYMCAからはスタッフ、リーダーが支援に駆け付けています。東京YMCAからは、阪神淡路大震災での支援活動経験者である佐久間真人（山中湖センター）が御船町スポーツセンターに先遣隊として派遣され、続いて宮田論（4/29～5/6：山手センター）、松本竹弘（5/6～13：山手センター）、三浦壮一郎（5/13～20：国際ホテル専門学校）、杉田裕樹（5/23～27：東陽町センター）、岡田ナスカ（5/25～29：山手センター）と続けてスタッフを派遣しています。東京YMCAは6月下旬まで応援派遣を予定していますが、長期的支援が必要なため、個人的には派遣体制の見直しが必須だと感じています。

1,500人規模の避難者を抱える益城町総合運動公園・体育館とは違い、私が派遣された御船町スポーツセンターは、約150名の避難者が顔の見える関係を築き、アットホームな暖かい雰囲気での避難所でした。この雰囲気や避難者同士の人間関係を築き上げてきたのは、被災者自身ではありますが、やはり熊本YMCAのスタッフの働きが大きかったです。

私が避難所でしたことは、熊本YMCAスタッフのお手伝いです。目的の一つに、「現地熊本YMCAスタッフが倒れないように支援すること」がありました。熊本YMCAのスタッフも被災者です。現地のスタッフを担ぎ出すまでもない会議、渉外、住民の対応をできるだけ引受け、熊本YMCAスタッフに休養や、家族と暮らす時間を作り出すことを願っていました。また、避難されている方の食事の準備、衛生管理や掃除、見回りなどもしました。

御船町には、いくつか避難所があります。御船町の大規模避難所（大体100人以上）の避難所があつまる連絡会議が2日に1回あります。そこでは、第1回目に、各避難所の苦労している所、不満、悩みの報告をしたそうです。しかし、YMCAだけは、そのような報告ではなく、

工夫している所、うまくやっている所を発表したそうです。タブレットを使って御船町スポーツセンター内の掲示物を見せ、朝のラジオ体操の様子、昼の楽しい体操の様子、それ以外のいろんな取り組みを示し、「住民の自立に寄り添う避難所」としての役割を説明したそうです。周りの避難所運営をされている関係者からの見学も多く、うまく運営ができていた避難所として注目されていました。

毎朝、ラジオ体操をします。前で体操をするスタッフはちょっと変なかつこうをして、楽しい体操を心がけています。昼の体操も他のメンバーと関わりを持ちながら楽しく行ないます。一発ギャグを募集して掲示板に貼ったり、家族写真や派遣スタッフの写真も貼りだしたりしています。5月5日の子どもの日には、こいのぼりを掲げました。母の日には花をプレゼントし泣いている方もいました。地震1ヵ月後の5月14日には、セレモニーも行いました。御船町の町長の挨拶、音楽演奏、子どもからのスピーチ、司会者は避難所にいる被災者など、みんなで作り上げたセレモニーでした。報道機関もたくさん入りました。また、北海道から鹿児島まで全国15のYMCA（35の各センター）から寄せ書きが送られ、フロストバレーYMCAからも届きました。また、国際基督教大学、横浜英和学院、岩手県釜石市釜石リージョナルコーディネーター協議会釜援隊（復興支援員）、宮城県南三陸町伊里前小学校からも寄せ書きを頂き、セレモニー会場は寄せ書きでいっぱいになりました。1ヵ月が経った今、このような避難所は他にあるのでしょうか。

今回の災害で熊本YMCAから学ぶことはたくさんあります。東京YMCAは、熊本YMCAと同様に指定管理で受託している施設がありますが、今後、高い確率で起こるとされる東京での地震災害に、私たちは対応できるのかどうか。災害時の対応について今からでも指定管理施設の契約書の見直しをした方が良いのではないかと。また、地域や団体とのつながりや連携をどのようにすれば最も効果があるのか。考えなければならぬことがたくさん出てきましたが、熊本YMCAの前例が大きく役に立つことは言うまでもありません。今後も多くの部署から派遣スタッフが続きます。少しでも早く被災された方が安心して生活ができるよう支援を続け、同時に私たちも大災害に備えたいと強く思いました。